

若者の力



生活支援技術—移動（起き上がり）を練習する介護福祉科1年生と指導教員—（撮影：河邊 聡子）

特集 新学長からのメッセージ

■ オリエンテーション

■ 短歌・俳句

■ 在学生ブログ開設

■ 教員の活動紹介⑯／先輩から後輩へ⑯

■ 編入学支援ガイダンス／キラリ いい顔⑯

■ 新任教職員紹介

■ 学生生活目標／川崎エコプロジェクト

■ インフォメーション

特集

新学長からのメッセージ

意欲をもって明日に向かう

守田哲朗前学長に代わり、この四月から
今城吉成先生（前学長補佐、放射線技術科主任）が学長に就任されました。
今城新学長からの「自己紹介」と「これからの抱負」です。



4月7日の入学式で「学長式辞」を述べる今城吉成新学長

自己紹介

これまでの人生の歩み



学長：今城 吉成

まず最初に、自己紹介をさせていただきます。
私は昭和十七年の生まれで、現在六十六歳になります。父は早くに亡くなりましたが母は健在で、つい最近百歳の誕生日を迎え、市や県から賞状とメダルを頂きました。
家族は、母と家内、長男、長女の五人です。残念ながらまだ孫の顔は見せてもらっておりません。よそさまの同年配の方がお孫さんの手を引いて歩いているのを見ると、うらやましい気がします。皆さんも将来子供ができれば是非見せに来てください。
大学を卒業したのは昭和四十三年で、ご存知の方もおられると思いますが、当時は大学紛争の真っ最中でした。私はいわゆるノンポリ学生でしたが、世の中の趨勢に押され何度か京都へデモにいった記憶があります。バスを連ねて京都の円山公園に集結し、そこから京都市内を練り歩き、またバスに乗って神戸に帰ってくるといったことをしていました。こんな状態でしたから、学業のほうは当然おろそかになり、患者様の視点から見ると大変無責任な学生生活を送っていたと反省しています。昔のことに頼かむりをして偉そうな事は云えませんが、自分の学生生活が不甲斐なかったと思う気持ち強いので、学生諸君には勉強することの大切さ、本を読むことの大切さを伝えたいと思っています。就職したり家庭

を持つたりすると自分の時間が取れなくなり。歳をとって体力や視力、記憶力が衰えると、同じことを勉強するのに何倍も手間隙てまひまがかかります。いつまでも若いわけではなく、過ぎ去った時は二度と取り戻せないのは皆さんよくご存知だと思います。何時かやろうではなく、今現在、自分の能力アップに励んでください。自信がつかし、一段と厚みのある人生の扉を開く機会が増えること間違いなしです。

話をもとに戻します。卒後の研修では、内科と外科を数ヶ月回り小児科に半年あまり在籍しました。そこで自分の知識のなさ、考えの軽さを痛感し、やっと自分の職業にとって勉強がどれほど大切だったかを身にしみて味わいました。病棟には白血病の患児が沢山いましたが、現在と違って抗がん剤も数種類しかなく、どんどん悪くなる子供たちをただはらはらして見送るしか術のない自分を悔やむ毎日でした。その後、麻酔科を経て最終的に放射線科に入ったのも、がんを対象とした臨床や研究を通して、子供たちに何もできなかった無念さを少しでも晴らしたいとの思いがあったといえる気がします。放射線科では画像診断、核医学を含めた初期研修の後に放射線治療の研究グループに所属することを決め、爾来三十七年余りを放射線治療一筋でやってきました。昨年川崎医科大学で定年を迎え、現在はがんの患者さんを診ることは無くなりましたが、高齢社会を迎えたわが国でのがん診療の重要性はますます高まっています。短大での教育を通して次世代の君たちに、バトンをタッチする仕事に精を出したいと思っています。

川崎学園との関係は、昭和四十九年に恩師の木村修治先生とともに川崎医大の放射線医学(治療)教室の講師として赴任したことで始まりました。昭和五十三年(六十一年の神戸大学での在任期間をまたいで、延べ二十六年間になります。また川崎医療短期大学とは、平成九年の四月に前任の西下創一教授から放射線技術科の主任を引き継いで以来の係わりで、十二年が経過しています。これまでは、放射線技術科という窓を通して短大を眺めることが多かったのですが、今後は教職員の皆さんの協力を仰ぎながら、視野を短大全体に広げて本学の更なる発展に全力を注ぎたいと考えています。

これからの抱負

よりよい大学を目指して

八年にわたって学長を勤められた守田先生には多くのことをご指導いただきました。現在のところ学長としての実務的ノウハウをほとんど持たない私は、守田学長の引かれたレールの上をとにかく走り続けることから仕事を始めたいと思っています。

まず、医療に明るい保育士の養成を掲げて開設された医療保育科は、昨年無事に第一期の卒業生を世に送りだしました。教職員と学生が一体となった特色ある素晴らしい学科創りが功を奏し、入り口と出口、すなわち受験生の応募状況や求人・就職の状況は、新設の学科とは思えないほどの安定ぶりを示しております。この状況が維持され、さらに発展していくように足元を固めるとともに、油断なく将来に備える必要があります。

また本学の建学の理念、「人をつくる、体をつくる、深い専門的知識・技能を身につける」のなかで、短期間の達成がとりわけ難しい人をつくるの教育をより充実させたいと思います。これまで「教養教育の充実」の一環として「医療福祉教養講座」を行ってきましたが、本年度からは入学した年の前期に保健医療福祉概論が開講されることになりました。学長や教務部長、各学科を代表する先生方のリレー講義で、医療や福祉の分野で働く職業人の基本的なルールやマナーをはじめ、自分を客観視するためにはどのような手立てが必要かに関しても、各分野の仕事内容、トピックスに早い時期から触れることで心の準備をし、人間性を高める努力をしていただくこととするものです。是非内容の濃い、実り多い科目に育てて行きたいと考えています。

さらに本学では、今年度から単位制が採用されます。昭和四十八年の開学以来、本学は学年制で教育を行い多くの卒業生を送り出してきました。どの分野でもそうでしょうが特に医療や福祉・保育の分野では、単に個々の単位を取得するだけでなく、社会に出ていつでも利用できる生きた形の知識として各教科の内容を身につけて

もらう必要があります。本学の創立者である川崎祐宣先生は、「病院や施設での実習の時間を多くして、卒業後すぐに役立つ学生を養成する」を教育の柱にすえられ、実学を重んずるとともに留年してしまつた学生にはもう一度全ての教科を再履修してもらおう方針を立て、手厚く手厚く学生を教育するように教職員を指導されました。事実この方針の下で教育された本学の卒業生は、川崎先生の思惑通り各分野で高い評価を得てまいりました。しかし一度修得した単位をご破算にするこうした制度は、現在の教育指針や外部評価では受け入れられない面があります。そこで本学も、前学長のご英断で単位制を開始することにしたのです。教育制度が変わるといっても、教育に携わる教職員はこれまでと同じですし、教育に注ぐ情熱もいさかも変わるものではありません。単位制に移行しても国家試験の合格率や卒業生の能力が低下するようでは、本学の栄えある伝統を築いてくださった先輩教職員諸氏、卒業生諸君に合わせる顔がありません。カリキュラムの見直しや履修ガイダンスの徹底、シラバスや成績評価制度の改善を図り、e-learningや学習ポートフォリオなどを導入することで、学生諸君の一人ひとりが自分の学習の経過を把握し、主体的に充実した学習効果が挙げられるような学習支援システムを構築する予定です。

米国のサブプライムローンの破綻に端を発する不況が日本を襲っています。医療の分野においても診療内容の高度化に予算措置が追いつかず、加えて少子高齢社会の到来がこれに追い討ちをかけ、目を覆いたくなるひずみが表面化しています。少ない人材を立派に育てる必要が従来に増して求められ、資源がほぼゼロのわが国が取りうる対策は、教育の充実と人材の活用以外にないように思われます。川崎医療短期大学という小さな共同体の中ではありますが、学生、教職員ともども満腔の意欲を持って明日に向かって一歩を進め、優秀な学生はより優秀に、落ちこぼれそうな学生も何とか一人前に育てあげること世の中の期待に応え、責任を果たしたいと思えます。ご協力の程よろしくお願い致します。



入学を迎えるにあたって

入学式前オリエンテーションを開催

■ 学内オリエンテーションの日程

月日(曜日)	□ 主な行事
4月1日(水)	□ 川崎学園・川崎医療短期大学概要説明 □ 庶務課・教務課ガイダンス □ 履修・シラバスについて
4月2日(木)	□ キャンパスライフについて □ 医務室・学生相談について ■ コミュニケーションオリエンテーション □ プレースメントテスト □ 学科別オリエンテーション
4月3日(金)	□ 健康診断 □ 学科別オリエンテーション
4月6日(月)	□ 全学科共通教育科目ガイダンス ■ 学歌の練習 □ 学科別オリエンテーション
4月7日(火)	■ 入学式 □ 学友会の紹介、各部・同好会の紹介 ■ 保護者相談会(キャンパスランチ)



天候にも恵まれ、いよいよ一斉にスタート。スタンプカードに記載されたヒントと構内の地図をたよりに、構内の各所に設置されたチェックポイントをスタンプラリー方式で探索します。



配られたカードをもとにメンバーを探し、学科を問わず3、4名の小グループを編成します。まずはスタンプカードに名前を書き込み自己紹介。出身県の話などで盛り上がっていました。

四月一日(水)から七日(火)まで、学内のオリエンテーションが実施されました。大学生活がいよいよ始まり、新しい環境に不安を抱えつつ、オリエンテーションの初日を迎えていたようでしたが、日を迫うごとに、その表情は柔らかくなり、笑みがこぼれるようになってきました。

今回は、オリエンテーションで実施された行事(学内オリエンテーションの日程参照)のうち、その一部を写真とともにご紹介いたします。学生たちの生きいきとした表情をご覧ください。

4/2 学科を越えた交流を目的に、「コミュニケーションオリエンテーション」を昨年度に続き実施しました。入学式前のオリエンテーションの中では、もともと人気のある行事です。学生間の交流だけでなく、構内の施設を知ってもらうためのにも開催しています。

4/6 式典の際に斉唱される学歌は、是非歌えるようになってほしいという願いから、今年度も「学歌指導」を実施しました。学歌の作詞は、岡山県出身の女流詩人として有名な永瀬清子によるものです。



ゴール地点の様子



終了後にメールアドレスを交換する学生もいました。

ゴール地点では、ささやかな賞品と参加賞が配られました。長時間座ったままの説明が多かったため、学生たちにとっては、これまでの堅苦しさや緊張感から解放される楽しい一時となったようです。



桜並木の陰や実習室など簡単には探せない場所にもチェックポイントが設定されます。チェックポイントでは、スタンプカードに一文字だけ印字されます。すべてのチェックポイントを制覇すると解答の文字列が完成します。



今城吉成学長による「式辞」では、これから始まる大学生活を真っ白なキャンパスに絵を描くことに喩え、卒業時に自分自身が納得でき、さらに他人からも評価される絵が完成することを目指し、そのように完成した絵をイメージしながら、勉学を始めることの必要性を示されました。

4/7 桜の花が新入生の入学を歓迎しているかのよう満開に咲き誇る中、川崎学園理事長である川崎明德先生をはじめ学園各施設長などの来賓、新入生のご家族、教職員に見守られ、希望を胸に抱いた新入生三百七十三名の「入学式」が挙



始めは慣れない様子でしたが、練習を繰り返すにしがって大きな声で歌えるようになりました。入学式では「学歌斉唱」が行われるため、今回の練習の成果が試されます。



医療保育科の教員2名と春休みを返上して集まってくれた在学生9名が指導に当たりました。教員による指揮と伴奏に合わせ、在学生が一節ずつ手本を見せながら、指導が進みました。

その詞に込めた思いや作詞の経緯なども説明がありました。



「学歌斉唱」の様子。練習の成果が発揮されました。



式の最後に行われた「学歌斉唱」では、新入生の歌声が場内に響き、入学式に幕が下ろされました。



「歓迎の辞」を述べた放射線技術科の森下愛子さん
自身の入学当手を振り返りながら、本学でどのように学んでいけばいいかについて、アドバイスをしてくれました。「力になりたい」という言葉は、新入生にとって心強いですね。



「宣誓」を述べた介護福祉科新入生の中平百香さん
本学の理念である「人をつくる」「体をつくる」「深い専門知識・技能を身につける」という建学の精神に基づき、それぞれの専門職を目指して学業に専念することを誓いました。

されました。はじめに、各学科の担任により、新入生の名前が一人ずつ読み上げられました。続いて、今城吉成学長から「入学許可」と「式辞」が述べられました。さらに、新入生代表による「宣誓」、それに応えて在学生代表による「歓迎の辞」が述べられました。



放射線技術科では、中庭の桜が入学式当日満開になったため、急遽中庭でホームルームを兼ねたキャンパスランチを実施しました。サンドウィッチを食べながら自己紹介を行い、交流を深めました。



介護福祉科では、保護者と新入生で席を囲み、教員を交えた質疑応答を行いました。保護者からはたくさんの熱心な質問があり、本学への関心の高さと教育への期待が感じられました。

■保護者が集まる入学式の機会を利用して、「保護者相談会」が式の終了後に行われました。
本学の「保護者説明会」では、「キャンパスランチ」と称し、新入生と保護者に軽食がふるまわれ、本学についてより深く知っていたりするための企画が、学科ごとに趣向を凝らして行われました。保護者は、入学から卒業までのカリキュラムの概要や、臨床実習、就職・進学状況などについて説明を受けました。

入学後 学外オリエンテーション

入学前のオリエンテーションとは別に、教員や先輩たちと親睦を深めるため、学科独自に工夫を凝らした学外でのオリエンテーションが毎年実施されています。

臨床検査科：親睦会(ドッジボール大会) (5月9日実施)



試合後は各チームでの昼食会を実施しました。上級生から学生生活についてのアドバイスを受ける姿もみられ、全学年通しての絆が深まりました。



臨床検査科では1~3年生の学生全員と教員を対象にドッジボール大会を行いました。学年の枠を超えて編成されたチームではありましたが、どのチームも一致団結し、優勝目指して奮闘しました。

看護科：RSKバラ園 (4月30日実施)



各グループに分かれ、園内を散策しながらクイズラリーをしました。上位10グループまでには賞品が出るので、チームワークが勝負の鍵?



散策の後、グループごとにテラスでバーベキューを行いました。「乾杯〜!」と、話も盛り上がり、楽しいランチになりました。女の子のグループは、ペロリと完食です。

医療保育科：倉敷市少年自然の家 (4月18日実施)



アウトドア料理の王様「カレーライス」を作りました。煙と格闘しながら、炊き上げた白いご飯とカレー。苦労した分、味わい深いものになりました。



自然いっぱいの中、新入生も教員も一緒になり、野外炊事に取り組みました。火を起こしにくい釜もありましたが、灰まみれになりながら息を吹き込みました。

介護福祉科：手打ちうどんと金毘羅宮研修 (4月25日実施)



あいにくのお天気でしたが、雨露で新緑が美しい金毘羅宮へ参拝しました。785段の階段を上がり、本宮へ。日頃の運動不足が皆さんかなり疲れていたようでした。



1、2年生が協力して、手打ちうどんを作り、試食しました。中力粉に食塩水を加え、リズム良く力を込めて混ぜ合わせ、最後にコシを出すために足で踏み込みました。

第十四回「前田純孝賞」学生短歌コンクール

本学から五名が入賞

「第十四回『前田純孝賞』学生短歌コンクール」(新潟県主催)において、本学医療保育科三年生五名が準前田純孝賞以下、各賞に入賞しました。テーマは、「学校生活」「山の四季」などについてです。これは、医療保育科の「幼児と国語」の講義の「環」として取り組んだものです。受賞者と受賞した歌は以下の通りです。このコンクールの詳細は、本学のホームページのトップページにある「News & Topics」の二〇〇九年三月四日付「第十四回『前田純孝賞』学生短歌コンクール審査結果について」をご覧ください。

準前田純孝賞

小さな箱で一つの命が動いてる無力な私に胸が痛む

(太田 侑希)

新潟県長賞

先生と呼ばれていても気づかない保育所実習初めての経験

(瀧川由梨香)

新潟県町教育長賞

初みかんいまだ青くて酸っぱくて十六歳の秋思い出出す

(大森 真波)

よたよたとこららめがけて歩み来る昨日まで立たなかった小さな足で (小野麻梨奈)

神戸新聞社賞

栗ご飯で感じた食欲なんだらう炊飯器から秋の香が

(横山賀奈子)



守田哲朗前学長から表彰状の授与の後、学長室にて各入賞作品について、談笑している一コマ。
準前田純孝賞の太田侑希さんは、「小さな箱」とは保育器のことだと説明をしていました。また、その他の作品についても、守田前学長から分かりやすく、よく気持ちが伝わってくるという感想をいただきました。



賞状と盾を手に喜びの笑顔
後列右から、太田 侑希さん・横山 賀奈子さん・小野 麻梨奈さん、前列右が瀧川 由梨香さん・大森 真波さん

日本赤十字社主催 第三回「いのちと献血俳句コンテスト」

団体賞(一般の部)を受賞

本学放射線技術科二年生二〇名が応募した第三回「いのちと献血俳句コンテスト」において、団体賞(一般の部)を受賞しました。これは、「文章表現」の授業の中で取り組んだものです。

三月八日(日)に岡山県赤十字血液センターにおいて授賞式が行われ、学生代表三名が出席し、賞状とメダルと副賞を授与されました。投句した学生と相談した結果、副賞の図書券と同額を、日本赤十字社の海外救援金として寄付しました。結果については、二月二十四日付「朝日新聞」夕刊に掲載され、三月八日の授賞式についても、三月九日付の「山陽新聞」朝刊に掲載されました。

このコンテストは、日本赤十字主催、厚生労働省・文部科学省後援であり、俳句の選者は、作家のいとうせいこう氏、俳人の大高翔氏、さらに自身も白血病の闘病をしている歌舞伎俳優の市川團十郎氏でした。このコンクールの詳細は、本学のホームページのトップページにある二〇〇九年三月四日付の「News & Topics」の「第三回『いのちと献血俳句コンテスト』」をご覧ください。

これらの俳句は、献血、命の尊さ、愛、友情、助け合い、感動などについて思うこと、感じたことをテーマにしたものです。以下は、投句した作品です。

献血を呼びかける子のかじかむ手

手のひらを透かしてみれば紅葉かな

五月雨の寄せ合う肩に余る傘

聖なる夜ギフトを運ぶ献血車

献血でいのちの赤い贈り物

一目惚れはにかみ顔の雪だるま

放射線今や希望の光線だ

母強し我が子抱く腕見ている

献血は人も喜び私も喜び

満天の星を並べた十代の夏



個人の入選者と団体の部の受賞者を交え、記念写真の撮影



学生代表として表彰状を授与される放射線技術科の田坂礼那さん

NEW 本学HPに**在學生ブログ**を開設

日頃の学生生活を知ってもらい、高校生との交流を深めることを目的に、在学生による日常を綴ったブログが、本学ホームページの中に新規に開設されました。ブログを読んで質問などあれば、ブログ内に質問用のメールアドレスがありますので、気軽にメールを送ってください。皆さんからの質問を楽しみに待っています。

本学HP <http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/> にアクセス



各学科の在學生ブログが閲覧できます

川崎医療短期大学介護福祉科学生ブログ

ポディメカニクスたちから、介護福祉科の令をお伝えします。これからの福祉を担う？介護福祉士の皆さんがどのような大学生活を送っているのか・・・是非ご覧ください。

スポーツ大会！

男子はソフトで女子はバレーでCMのワークは忙しいもジョウケン取けたらもうでし...残さず！

「まっかだな」歌うその子のほったが何より赤く愛おしく

眠たくてコーヒー買って飲んでみた大人の味はまだ苦すぎた

先輩に言われた言葉胸にひびくたよっていいよ頑張りすぎだよ

どんぐりのころがる山道登って見渡す限りの秋空目指して

「まっかだな」歌うその子のほったが何より赤く愛おしく

（石原さゆり）

だいたすきと言うと照れてる子供の顔みつめるだけで優しくなれる

十四年新友・親友・心友とどんどん深まる友の絆よ

満面の笑みをこぼして駆け寄り手には立派な泥だんごかな

幼な子のほほが色づくもみじ色見ているこららの心も色づく

だきしめた小さな体あたたかい笑いも涙もぜんぶ大好き

眠たくてコーヒー買って飲んでみた大人の味はまだ苦すぎた

先輩に言われた言葉胸にひびくたよっていいよ頑張りすぎだよ

どんぐりのころがる山道登って見渡す限りの秋空目指して

（小野 香）

（重松 美沙）

（榛村 歩）

（住矢 菜実）

（守屋 美沙）

（小林美香里）

（足立恵梨都）

（池田しのぶ）

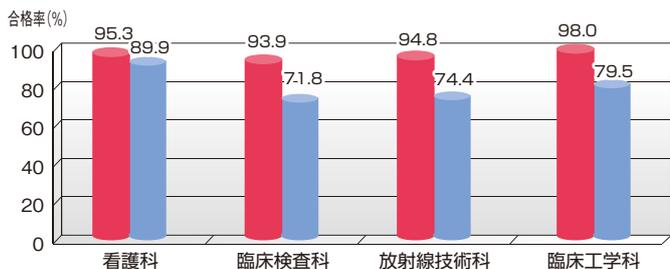
この他にも、残念ながら入賞を逃しましたが、学生の気持ちがよく伝わってくる歌が数多くありました。紙面の許す限り、掲載しました。

平成20年度 国家試験結果と進路状況

3月末に、平成20年度の家試験合格発表がありました。下に示したように、今回もすべての学科で全国合格率を上回る好成績を収めました。

就職については、就職希望者329人に対して、求人件数2,369件、求人数7,573人（前年度と比べ781人増）と圧倒的に多く、就職率はほぼ100%と非常に好調に推移しました。また、進学は、希望者38人全員の進路が決定しました。主な進学先は、岡山大学、名古屋大学等の国立大学へ21人、川崎医療福祉大学等の私立大学へ15人、公立短大へ2人でした。各学科の最新情報は、本学ホームページ（<http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/>）をご覧ください。

平成20年度国家試験合格率（本学と全国）



	看護科	臨床検査科	放射線技術科	臨床工学科
受験日	2月22日	2月25日	2月26日	3月1日
発表日	3月26日	3月31日	3月31日	3月24日

雪が降り静けさしみて山眠る
君とゆく献血車への道のりを
はりあげて蝉と赤ん坊声比べ
弟と一緒に探したオリオン座
星堂が頑張る僕ら見守るよ
真冬空みなで見上げた流星群
祖母作るおせらと雑煮食べて寝る
寒い日に献血行ってあたたまる
春近し献血ルーム足のぼし
こたつの中家族の足でピラミッド
湯たんぽで血潮を感じる足の裏
冬の空見上げて浮かぶ君の顔
赦いたい難病たたかう人のため

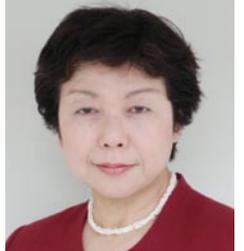


放射線技術科2年生の俳句投句者全員で、記念品としていただいた献血のキャラクター付鉛筆を手に「はい、ポーズ」

教員の活動紹介⑮

「療養上の身の回りの世話」をするには、その人の尊厳を支えること

看護科教授 中西 啓子（成人看護学急性期看護担当）



今年度より本学のカリキュラムが一新されました。時を同じくして、厚生労働省によって保健師・助産師・看護師基礎教育のカリキュラム改正が行われ、看護科のカリキュラムは、この意向の上に立って改正されました。改正の趣旨は、近年の医療環境の変化に対応するため、看護の対象を疾患や障害をもちながら（社会で）生活している人として幅広くとらえ、保健・医療・福祉制度のもとで多くの職種とチームで協働する中で看護の役割をはたし、時代に応じた知識や技術を学び続ける人材を育成することです。

時代の要請に即して看護の働きかたは変化しますが、保健師助産師看護師法にある「厚生労働大臣の免許を受けて傷病者もしくは褥婦（出産後の人）に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする」という看護師の定義は変化していません。

さて、前置きがむずかしく長くなりましたが、私が担当する急性期の看護は診療・検査・処置の際に有能な介助技術が求められます。と同時にそれ以上に、相手の状態を的確に判断して援助する「療養上の世話」ができれば真の看護師とは言えません。

実際にはどのようなことかと言えば、入浴の許可が出ない人に入浴した気分になれるような清拭（体をふくこと）をする、歯磨きなどで口の中をさっぱりしていたく、ベッドのしわをさっぱり、病床の周りを掃除するなど、日常生活をこざっぱり過ごしていただく看護の基本的援助技術です。これらのことは一般的に余り知られていないようで、患者さま

やそのご家族から「看護師さんでそんなこともなさるのですか」としばしば言われます。

この基本的な技術を、患者さまのおかれている治療経過に即して適用すると、治療とはいえ痛みや苦しい処置であっても、その後の「やる気」を燃え立たせ、療養に積極的に取り組んでいただけ、結果的に良好な経過をたどり、苦しい期間が短くて済みます。術後は、治療処置の影響で口が渴きます（このことを科学的裏づけに基づいて認識できるか否かは学習の成果とその看護師の感性により異なります）。うがいや歯磨きをしていただくのと、「さっぱりして気分がよくなった」と聞きます。それだけではなく、「今までは口臭がするのではないかと話ができなかった」と必ず言われます。そして何度も「気持ちよくなってくださって」とこちらが恐縮するほど感謝の意を表されます。

このような日常生活の基本的援助の効果は数値データには出てきません。しかし、生活の援助は患者さまにとって大きなことなのです。こざっぱりした状態でもいられるよう援助することには治療効果に寄与するとの人も、その人の人間としての尊厳を支えていると実感します。



患者さまのベッドへの移動援助

先輩から後輩へ⑮

「やりがごとく」

医療法人東山会 亀龍園 江草 由美（介護福祉科二期生）



私は、平成十六年三月に介護福祉科を卒業し、現在、倉敷市亀山にある医療法人東山会亀龍園に勤めています。この春で六年目になりますが、毎日先輩、後輩と共に忙しい日々を送っています。

私が、介護の世界に就職し周りの人達から言われたことは「大変でしょう？」や「すごいね。私には絶対無理だよ」などといった言葉でした。確かにこの仕事はきついものではないし、精神的にも肉体的にもとてもキツイ仕事だと思っています。

大学や社会に出てからの経験で介護とはこういうもの、認知症とはこういうもの、と頭でわかっていても、利用者さんに私たち職員の伝えたいことが分かってもらえない時、イライラしてしまいます。その度に私は、この仕事が自分に合っていないのではないのだろうかかと落ち込んでしまいます。

また、人の「死」に直面することも多く、昨日まで一緒に生活していた利用者さんが亡くなるなど辛いこともあり、さすがに毎日楽しく仕事が続き、やがて利用者がいるからと思いきや、認知症の利用者さんが多いため、私の名前を覚えてくれる人はとても少ないけれど、



貼り絵を楽しむ利用者さん



ギター伴奏で歌を歌う利用者さん

「ありがとう」や「あんたがおると安心じゃ」、「あんたの明るい元気な顔を見ているとこつちも元気になる」など、後で言ってくれたことすら忘れていても、そんな感謝の言葉をふとした時に言ってもらえることで、この仕事を続けていく良かったと心の底から感じます。

私が誠意を持って真剣に利用者さんと向き合っていると利用者さんも応えてくださることがこの六年間仕事を続けてきてわかるようになりました。私は、いま、この介護という仕事にとてもやりがいを感じています。そしてさらに、これからもやりがいと誇りを持って仕事を続けていきたいです。

これから介護福祉士を目指す皆さん、良い仲間を見つけ、利用者さんに良い意味で振り回されながら楽しく介護を行い、仕事にやりがいを感じてください。

第二回「編入学等支援ガイドンス」報告

五名の先輩を招いて

教務委員会 編入学等支援小委員会 中原朋生

平成二十年度第二回「編入学等支援ガイドンス」を三月三日（火）に、本学二〇〇号大講義室において実施しました。今回は編入学を果たした五名の先輩を招き、シンポジウム形式で編入学試験の合格体験を中心に話していただきました。当日は編入学をめざす一、二年生四十四名と教職員七名が参加し、編入学生の「生の声」を聴く貴重な機会となりました。

前半は、臨床検査科三年生 平田直也さん（岡山大学医学部保健学科に編入学）、放射線技術科三年生 長船莉恵さん（名古屋大学医学部保健学科に編入学）、看護科三年生 江角昌美さん（岡山大学医学部保健学科に編入学）から、編入学に向けた試験対策に関する話がありました。平田さんは、英語の過去問題への取り組みや、小論文及び志望動機書の添削指導など、本学の「編入学支援システム」をフル活用し、合格を勝ち取った経緯を話してくれました。長船さんは、編入学希望大学のオープンキャンパスにも参加し、「編入学対策における情報収集」の大切さを話してくれました。江角さんからは、勉強のペースづくりのため「学外の予備校を利用」していた話がありました。

後半は、介護福祉科



左から平田さん、長船さん、江角さん、西村さん、二宮さん

二年生 西村奈々さん

（川崎医療福祉大学医療福祉学科に編入学）と医療保育科卒業生二宮綾子さん（昨年、香川大学教育学部に編入学）から、話がありました。西村さんは、専門用語のキーワード集づくりをコツコツと続けてきたことや、「所属学科の教員による模擬面接」の指導について話してくれました。二宮さんは、編入学システムを利用すると同時に、所属学科の教員から「専門分野の口頭試問に関するアドバイス」を同時に受けながら編入学を果たした様子を話してくれました。



在学生からの質問の様子

五名の話から、本学の編入学支援システム、所属学科の教員や先輩のアドバイス、学外の予備校での学習など複数の支援を受けて編入学を果たした様子がよく分かりました。ガイドンス終了後は、編入学をめざす在学生の参加者が先輩を囲み熱心に質問していました。近年は、毎年卒業生の約一割（四十人程度）が進学を果たしており、編入学等の支援の必要性が高まっています。今後様々な取り組みによって編入学の希望が叶うよう支援していきたいと思っています。

キラリいい顔 6



看護科三年 有村 ゆかりさん

空き缶のプルタブを集めて車椅子を寄付する。このボランティア活動は多くの人が聞いたことがあると思います。私は高校の時にこの活動を知りました。ドラム缶いっぱいプルタブなんて気の遠い話だと最初は考えていました。しかし、高校在学中に長い期間がかりました。施設に車椅子を寄付することができ、一つ一つのプルタブを回収することの貴重な意味を改めて実感したのを今も覚えています。

ボランティア活動

今、私たちにできること

かからず、プラスチックごみとして処分されてきており、多くの二酸化炭素を発生させていました。しかし、ペットボトルのキャップを外すことで、結果として排出される二酸化炭素の量を削減でき、さらにワクチンを受けられない子供たちの感染予防ができるのです。

プルタブ回収には様々な意見があります。現在のアルミ缶のリサイクル率は約80%を超え、わざわざプルタブを回収しなくてもいいように思えるのも事実だと思います。しかし、私はプルタブやキャップをリサイクルすることで「環境保護」や「車椅子・ワクチンが必要としている人々への支援」の二つの目的を考えることが、とても大切だと思います。

本学の学内にも回収ボックスの設置がなされました。今、私たちにできる身近なエコ・ボランティアから始めませんか？



学生寮のホールに設置された回収箱の前で（右側は高橋良依さん）
私たちは、認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」
(URL: <http://www.jwcv-jp.org/>) の活動を応援しています。

新任教職員紹介

本年度から本学の仲間になった教職員の方々を紹介します。



橋本 勇人 医療保育科 教授

大学時代から現在まで、前半の15年は法学を、後半の15年は医療福祉学を中心に学んできました。学問のエッセンスとその利用法を、できるだけ分かりやすく伝えたいと思います。一緒に頑張っていきたいと思います。



佐藤佳代子 看護科 助教

看護の道を選択することによって、専門職としての資格を得ることだけでなく新しい自分を発見し、成長させることができると思います。日々おこる様々な出会いを大切にしながら、看護のあり方を一緒に探求していきたいと思います。



前崎 茂子 看護科 講師

私は、本学第一看護科の卒業生です。看護師で勤務後、教員として看護専門職の育成に携わってきました。看護師を目指している皆さん、色々なことに興味を持って経験し、楽しく一緒に学びましょう。



近藤栄律子 看護科 助教

4年前に本学を卒業し、お世話になった先生方とまた一緒にできることを嬉しく感じています。私自身、本学で過ごした3年間で看護の興味深さを知ったので、学生にもそのことをぜひ伝えていけたらと思います。



平上久美子 看護科 講師

看護教育に携わってまだ経験が浅いですが、無限の可能性を秘めた学生と看護を探究できることを魅力に感じています。学生を力強く支援していけるように私自身も看護学・教育学を深め、共に成長し続けていきたいと思っています。



迎 由利子 臨床検査科 助教

臨床検査技師になるという夢に向かう後輩に、私が本学で学んだことをしっかり伝えていきたいと思っております。学生の成長を助けるとともに、自分自身も成長していきたいと思っております。笑顔で頑張りますので、よろしくお願いたします。



辻 真美 介護福祉科 講師

介護福祉士として自己の中に育んでいく介護観が、利用者を中心として形成されていくよう、授業では皆さんの「気づき」を大切にしながら進めていきたいと思っています。ともに頑張りましょう。



小倉 和也 介護福祉科 助教

介護福祉士として、現場で培った経験から介護職の魅力を伝え、「学びたい」「成長したい」と意欲が向上する授業を目指しています。皆さんの学生生活が実り多きものとなるよう一緒に頑張りましょう。



福武まゆみ 看護科 助教

老年看護学を担当しています。分かりやすい授業ができるように頑張ります。また、人間的にも魅力のある人になれるよう自分を磨き、皆さんと共に成長していきたいと思っています。



沼本 佳子 図書館 事務職員

この春、医福大図書館から異動してまいりました。同じ学園内の図書館でも様々なことが異なるため戸惑うことばかりですが、少しでも皆さんの「学び」のお手伝いができるよう頑張っていきたいと思っています。

研究生紹介 (看護科)

王 蕾 (オウレイ) 上海職工医学院 教員



ご紹介

この4月、中国の上海職工医学院から看護科研究生として来学されました。日本の看護教育全般について学ばれます。また、日本語や日本の文化などについても勉強されます。これから約1年間、皆さんと一緒に勉学に励まれますので、どうぞよろしくお願いいたします。

このことは私達に大切な示唆を与えている。昨日と今日の差はわずかであっても、目標を持って継続することの大切さは、勉強においても同じである。私も今年、博士がバレエを始めた年齢になり、物事を始めるのに遅すぎるといふことはないのだと、自分に言い聞かせている。

一方、日本におけるロケット開発の創始者といえば、東京大学教授であった糸川英夫博士であろう。その糸川博士が六十二歳のとき、貝谷バレエ学校に入学し、レッスンを始めたのである。最初、足はなんと九十度まであがったが、これを耳ぐらいまであげる必要がある。糸川博士は、九十度の高さから、毎日読んだ新聞紙を一枚ずつ重ねていき、足をあげる練習をした。そして一年三ヶ月で新聞紙の高さは耳の位置までになり、足も耳の高さまで楽々あがるようになっていた。更に二年間で、ポジション一から五までをマスターし、五年後には「ロメオとジュリエット」のモンタギュー伯爵として帝劇デビューをしたのである。

事務部から

62歳からの挑戦



事務部教務課
大高 正憲

協助会報告

平成21年度 川崎医療短期大学 協助会役員

会長	前 研治 (医療保育科3年)
副会長	岡本 裕貴 (看護科3年)
副会長	今城 吉成 (川崎医療短期大学学長)
監 事	大森 聡一 (看護科2年)
監 事	柴田 明佳 (放射線技術科2年)

平成20年度収支決算書及び平成21年度収支予算書

4月7日の入学式終了後に開催された平成21年度協助会総会において、下表の平成20年度収支決算書及び平成21年度収支予算書が承認されました。これにより今年度も学生の皆さんの学習や福利厚生及び学生生活や進路等に関する諸活動についての支援が行われます。

平成20年度 川崎医療短期大学協助会収支決算書

一般会計

収 入		支 出	
会費	9,780,000	学生研修助成費	4,056,431
雑収入(預金利子)	26,100	厚生福利費	3,847,039
前年度繰越金	5,390,367	学生生活指導費	2,229,690
		進路指導助成費	980,988
		渉外費	133,945
		事務費	427,865
		雑費	4,620
		予備費	0
		次年度繰越金	3,515,889
合 計	15,196,467	合 計	15,196,467

特別会計 施設整備基金会計

収 入		支 出	
前年度繰越金	23,730,627		0
雑収入(預金利子)	92,869		
平成20年度基金	800,000		
合 計	24,623,496	合 計	0
		差引残額	24,623,496

平成21年度 川崎医療短期大学協助会収支予算書

一般会計

収 入		支 出	
会費	9,500,000	学生研修助成費	4,800,000
雑収入(預金利子)	20,000	厚生福利費	3,770,000
前年度繰越金	3,515,889	学生生活指導費	2,200,000
		進路指導助成費	1,100,000
		渉外費	200,000
		事務費	450,000
		雑費	25,000
		予備費	490,889
		次年度繰越金	
合 計	13,035,889	合 計	13,035,889

特別会計 施設整備基金会計(予算)

収 入		支 出	
前年度繰越金	24,623,496		0
雑収入(預金利子)	90,000		
平成21年度基金	400,000		
合 計	25,113,496	合 計	0
		差引残額	25,113,496

※特別会計は、教育実習のための施設設備及び学生のために特に必要なものを備えることを目的とした積立金です。

平成21年度 4月～9月

学生生活指導重点目標

本学では学生の皆さんの基本的な生活態度の向上を目指して、半年ごとに「学生生活指導目標」を定めています。これは、①学生生活を気持ちよく過ごしてもらい、②実習先、就職試験(面接)、職場における評価を高めるというねらいで行っています。毎日の生活の中でぜひ気をつけてください。

①気持ちのよい挨拶を交わそう

おはようございます
こんにちは
こんばんは
さようなら
ありがとうございます
失礼します

※適切な挨拶を交わす習慣を身につけましょう。



②身だしなみに気をつけよう

本学では基本的に制服の着用を義務づけています。

だらしない着方になってはいませんか。

靴のかかとを踏んづけたりしていませんか。

周りの人にいい印象を持ってもらえるような服装を

こころがけてください。

学生生活委員会

地球温暖化対策
ワーキング
グループだより



川崎エコ
プロジェクト

ちょっとした
ガマンで
省エネ効果

地球温暖化防止のためにCO₂を少しでも削減するにはどうしたら良いのでしょうか?

毎日ゴミステーションに集められるビニール袋の中身を覗いて見ると、パンフレット・菓子箱・ノート・封筒・雑誌類が多量に入っています。これらは資源として重要な再生物です(木材から紙を作る場合に比べて古紙を再生すれば、電力や重油のエネルギー量は3分の1から5分の1まで減少すると言われています)。コピー用紙は材質が良く、ノート・コピー再生用紙・封筒などに生まれ変わります。また、ペットボトルを再生すると、制服・作業服・カーペット・カーテン・卵パック等に生まれ変わるので利用価値が高く、今後学園全体で回収方法を考えていくべきでしょう。

本学でCO₂を削減するには、ゴミ袋の中には再生可能な物は入れないことです。封筒・コピー用紙・菓子箱等はゴミ箱に入れないでください。未分別のゴミは、倉敷市は回収してくれません。また、個人情報漏えい等も考えられますので十分注意してください。学生ホール、教室等には分別箱を設置しますのでご協力をお願いします。

「資源回収ヨシ」を合言葉にゴミの削減に取り組みましょう。毎日が3S(整理・整頓・清掃)の実行ですね。

(庶務課 山口義雄)

分別ステッカーの種類



コピー用紙
雑誌・書籍
菓子箱・包装紙 など

再生紙以外の紙ゴミ
紙コップ
弁当の残飯 など

平成21年

第2回公開講座

講座名 「ヒトにやさしい優れモノ
～超音波の医療応用～」

講師 島 二郎
本学臨床検査科教授
川崎医科大学 検査診断学（内視鏡・超音波）教授

内容 超音波は「ヒトにやさしい優れモノ」です。この講演では、超音波をつかった検査法について解説するとともに、「見える超音波の世界」を紹介いたします。

日時 8月22日(土) 10:00～11:30

会場 川崎医療短期大学 体育館 101教室
入場無料（一般の方の参加をお待ちしています）

申込み・お問い合わせ先

〒701-0194 岡山県倉敷市松島316
川崎医療短期大学 公開講座係
TEL: 086-464-1032 FAX: 086-463-4339
Eメール: koukai@jc.kawasaki-m.ac.jp

主要行事（7月～9月）

7月
26日 第4回オープンキャンパス
29日 定期試験開始
30日 放射線技術科3年臨床実習終了

8月
3日 介護福祉科2年介護実習（～31日）
17日 第10期師生訪問団上海訪問（～21日）
22日 第5回オープンキャンパス
第2回公開講座
24日 臨床検査科3年臨床実習開始
医療保育科3年病児保育コース実習開始
（～11月7日）

9月
1日 医療保育科2年保育実習I（～10日）
2日 医療保育科3年発達障害児保育コース学外研修
（～3日）
7日 看護科3年臨地実習開始（～10月7日）
16日 臨床検査科病院実習開始式
24日 臨床検査科ワッペン授与式
25日 放射線技術科授章式
26日 AO入試
29日 放射線技術科臨床実習開始（～3月19日）

川崎医療短期大学広報誌「若きいのち」（65号） 2009年6月発行

編集発行：広報誌編集委員会

藤原忠昭（庶務課・委員長）
天野貴司（放射線技術科・副委員長）
名木田恵理子（一般教養） 橋本美香（一般教養）
重田崇之（一般教養） 阿部裕美（看護科）
近未久美子（臨床検査科） 河邊聡子（介護福祉科）
中井 靖（医療保育科） 重政有里（庶務課・書記）

写真協力：二葉写真館

印刷：友野印刷株式会社

皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194
倉敷市松島316 川崎医療短期大学 広報誌編集委員会
電話：086-464-1032（庶務課）
Eメール：kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp
ホームページ
http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/



オープンキャンパス2009・開催スケジュール

■学科紹介 施設・女子寮見学は毎回実施

内容は日程や学科により多少異なる場合がありますので、事前にホームページ(<http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc>)等で確認してください。

第4回 7月26日(日)
10:00～15:00

夏休みの1日が
あなたの未来を変える!!

- 全体説明会 ●学食体験 ●附属病院見学ツアー
- 入試問題解説講座 ●在学生との懇談
- 模擬講義・体験実習 ●進学等相談コーナー 他

Information▶▶ AO入試1次面接を実施

第5回 8月22日(土)
13:00～16:00

川崎医療短期大学で何を学べるか?
—めざせ!医療・福祉・保育のスペシャリスト—

- 全体説明会 ●在学生との懇談
- 入試問題解説講座 ●進学等相談コーナー 他
- 模擬講義・体験実習

Information▶▶ AO入試1次面接を実施

どうぞ!!
保護者の方や
先生方も
ご参加ください

事前申し込みは不要です
どなたでもお気軽にご参加ください

※AO入試エントリーの方は
7・8月のいずれかに必ず
参加してください。

◆参加された方に入試資料・記念グッズ
などプレゼントいたします。



◆当日JR中庄駅から往復無料バス運行。
（開始約1時間前から。第1回・6回なし。
駅から徒歩では20分）

◆駐車場あり(当日無料)

第6回 10月10日(土)/11日(日)
10:00～15:00

川崎学園を探検しよう
—学園祭でひと足先に学生気分を—

- 進学等相談コーナー 他(10日/11日)
- 入試対策講座 他(10日)
- 附属病院見学ツアー 他

Information▶▶ 川崎学園祭と同時開催

所在地および
お問合せ先

岡山県倉敷市松島316 TEL:086-464-1033

HPアドレス <http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/>

携帯アドレス <http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/mobile/>

入試係直通

携帯用
QRコード



広報誌「若きいのち」は、学内報告(学報)に広報的な役割をもたせることを目的にスタートしました。また、本学の「今」を伝えるため編集期間を縮め、年四回に発行が増えたのも「若きいのち」の発刊時からです。最新の学内情報は、ホームページでも一部閲覧可能ですが、電子媒体とは違う多彩なレイアウト構成、躍動感あふれる鮮明な写真、詳細な文章などで「紙媒体の魅力」を生かしながら、これからも伝えたいと思っています。

この四月から藤原新委員長を中心とした新しいメンバーによる編集作業がスタートしました。広報誌「若きいのち」の立上げからこれまで、掲載記事の選定やレイアウト構成など、名木田前委員長のもとでこれまで築き上げた伝統を踏襲しながら、より魅力のある紙面作りに務めたいと委員一同思っています。

最後にお願ですが、感想などでも結構です。今後の広報誌の発展のため忌憚のないご意見をEメールにてお聞かせ下さい。皆様のご意見やご要望を楽しみにお待ちしております。(天野貴司)

編集後記